

平成23年度岡山県文化賞 (学術部門, 医学分野) を受賞して The 2011 Okayama Prefectural Culture Prize (Academic Category)

岡山大学名誉教授

Professor Emeritus, Okayama University

岡田 茂
Shigeru Okada

この度、森田潔学長、許南浩副学長のご推挙を頂き、岡山県文化賞(医学)を受賞致しました。この賞は、私のライフワークとしております「生体の鉄代謝」ならびに「ミャンマー医療人育成」に対して頂いたものです。

鉄の研究は私がアメリカ合衆国ミズリー州のワシントン大学血液学教室に留学した33歳の時に始まります。帰国後の京都大学第一病理学教室講師時代に鉄キレート物質の腹腔内注射によって「腎臓がん」が高率に発生することを見つけたことから将来のテーマが決まりました。それまで鉄など生体異物投与による局所の「肉腫」発生は報告されていましたが、投与部位とは異なる場所に「癌腫」の発生を見たのは世界で初めての事でした。この研究は発表を急ぐあまり和文が初出となり、その後、特に外国の研究者からの引用を受けるときに妨げとなってしまいました。このあたりの事情は私の著書「鉄と人体の科学、悠飛社、2005」に悔恨と共に記述しております。

鉄による発がんでは、「鉄コロイドによる中皮腫の発生」も見出しています。これはさすがに Brit. J. Cancer に発表しましたので、後に、日本でアスベストによる中皮腫発生が社会問題になったとき、多くの方が追試してくださいました。私は今でもアスベスト発がんは鉄誘起フリーラジ

カルによる遺伝子傷害が原因だと思っています。これらの研究では濱崎周次君(昭和57年岡山大学医学部卒、現川崎医科大学病理学教室教授)、豊國伸哉君(昭和60年京都大学医学部卒、現名古屋大学病態病理学教授)らとの研究生生活が楽しく思い出されます。豊國教授は現在もこれらの研究から発展した「酸化ストレスと発がん」のテーマを精力的に追求しております。

受賞のもう一方の柱であるミャンマー医療人育成は、1988年と1990年の二度にわたるビルマ JICA プロジェクト(新ヤンゴン総合病院、看護大学、医学研究局の建物、資材供与)の仕上げに参加したのがきっかけです。その第2回目訪緬時に輸血依存性サラセミア患者の血清中にフリーラジカル発生の触媒となる「自由鉄」が多量に存在することをビルマ医学研究局の研究者と共同発表しました。岡山大学に移籍後も文部省科学研究費で国際共同研究を申請しましたが、ずっと拒否され続け、ついに1996年「ミャンマー国肝がん早期発生要因としてのサラセミア症鉄過剰症と輸血関連疾患の調査研究」のテーマで初めて採用されました。それ以後、ミャンマーとの縁が深くなったのです。

私が2005年に定年退職し、2006年にNPO法人「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」を設立してから

の活動を列記します。

1. 医療人育成支援

岡山大学(医学部、歯学部、薬学部)、学校法人加計学園(岡山理科大学、倉敷芸術科学大学)、地域の関連病院、京都HLA研究所と連携して、ミャンマーに必要な医療の指導者を研修しており、現在までに30名が来日しています。

現在の研修期間は、ミャンマー側の意向もありほとんどが10週間となっていますが、将来的には4年制のPhD育成も視野に置いて、奨学金制度を確立したいと考えています。

2. サラセミア対策

遺伝子診断、鉄過剰症問題など、サラセミア遺伝子診断キットの開発(原野昭雄理事)によりサラセミアの遺伝子診断が迅速に行えるようになりました。遺伝子キットは周辺東南アジアにも広げる必要があると考えています。現在鉄過剰症に関してはウシオ電機と協同で診断用に血性フェリチンPOCT(臨床の場における即時診断)を開発中です。

3. ウイルス性肝炎対策

ミャンマーにおける肝炎ウイルスの遺伝子型の研究、慢性肝炎患者に対する瀉血療法、これにも血清フェリチン測定キットの開発が重要です。ウイルス保因者の進行防止研究。瀉血療法は例外なしに肝炎マーカーの低下を見ており、ミャンマーのみならずインターフェロンの使用が難しい周辺東南アジア地域にも広げたい。

4. 子宮頸がんスクリーニングセンターの設立と運営

ヤンゴンとネピドーに2008年設置。ヤンゴン地区では2013年スクリーニングを貧困地区に拡大しました。支援を継続すると共に、細胞診断医を育てたいと思います。

5. サイクロン「ナルギス」被害の募金活動、救済支援

2008年11月にはミャンマー保健省の Deputy Minister Dr. Paing Soe, DMR-LM の Director General, Dr Khin Pyone Kyi, Department of Medical Sciences の Director General, Dr. Than Zaw Myint が謝礼に来岡され、岡山大学で特別講演を行いました。

6. 貧困地区、サイクロン被害地へのクリニック建設

下野クリニック (Hlaing Thar Ya Rural Health Centre), Thidar Myain Subclinic (NPO の募金による), 茜クリニック (Khlaik Chauke Subclinic), Ah Lin Yaung 南川 Clinic (Boat Ta Loke Subclinic), と きわ / 岡コンクリック (Kalawel Rural Health Centre), 井上クリニック (Ye Mon Subclinic) が贈呈済みです。現在7か所目にあたる、品川白ゆりクリニック (Sparkine

Subclinic) が建設中で、今年9月に贈呈式を予定しています。

7. 医療知識の普及

過去7年にわたり Myanmar Health Research Congress で岡山大学医学部の教官を中心にシンポジウムを開催、医学知識、最新技術の普及に努めています。延派遣教員数は40名に上っています。

8. 医療技術の伝播

ミャンマーで遅れている医療のうち、形成外科、脊椎外科について、岡山大学形成外科教室、三重大学形成外科の有志によるネピドー、ヤンゴンでの手術実践は4回にわたっています。医師派遣数は15名以上となっています。

9. 井戸水ヒ素対策

デルタ地帯のほとんどの浅い井戸がヒ素に汚染されていることに鑑み、岡山理科大学に依頼し、井戸水のヒ素測定、大阪の東洋技研に依頼して、ヒ素吸着材の提供を

うけ、現在一つのモデル村を対象にヒ素除去に対策を講じています。結果をみながら、ろ過方式を今後広めたいと考えています。

10. NPOの機関紙「ミンガラバー」の発行
現在23号まで発行済みです。また、NPOのホームページは <http://www.mjcp.or.jp> ですが、このページをみて、連絡くださる方が最近増えています。

ミャンマーは2011年3月に軍政が終わり、上院と下院からなる議会政治が幕開けしました。その後の動きは、皆様もご存じの通りですが、テインセイン大統領の下に民主化の施策が次々に具体化しつつあります。これにつれて、経済封鎖を続けていた欧米、日本も経済封鎖を解く方向に進んできましたが、この方向が狂



2012年1月 Myanmar Health Research Congress での晩餐会、岡大からの出席者と岡大への研修医が集まって



2012年1月 保健大臣 Dr. Pe Thet Khin (中央) と副大臣 Dr. Myat Mayt Ohn Khin を囲んでの昼食会、氏家教授と NPO 救命オカヤマのグループと共に



日本からの視察団と岡山で研修を行った医師たち (医学研究局にて)



ネピドー総合病院にて手術指導中の岡大形成外科グループ

わないように心から祈っています。

欧米、日本からの経済封鎖の続いていたミャンマーではこの間経済的にも、政治的にも中国の影響が支配的でした。それから、意外に思われるかもしれませんが、ヤンゴン国際空港では韓国人の姿が目立っていました。彼らは以前からミャンマーの将来を見込んで多大な投資をしてきたということも判ります。日本のJICAに相当する韓国のKOICAの活動ぶりを見ていますと、JICAの現地での活動には齒がゆい思いがしておりました。

日本では太平洋戦争の記憶が薄れると共に、ミャンマー（ビルマ）の事を知っている日本人も少数となってきました。私はこれまで講演会などの機会ごとに親日的なミャンマー

の真の姿をお知らせするように努めて参りました。彼らは植民地からの独立を助けた日本人を忘れていませんし、その日本人を泣かせたファシスト日本も忘れていません。これらの歴史は小学校でも教えているという彼らです。最近の情勢から、ミャンマーに関心を持って下さる方も増えてきて、嬉しく思っています。

折角頂いた岡山県文化賞にも応えるための今後ですが、先に述べました活動をより活発に引き継ぐと同時に、岡山大学病院関連の先生たちにミャンマーでの医療技術指導者として活動して頂く場所を設置する、という夢を持っています。ミャンマーは伝統的にはイギリスで修練したという指導者が力を握っていました。しかし、この伝統にも長期にわたる

断絶があり、その次の指導者がいません。多くの教授は定年を過ぎても暫定的にその席に残っている有様です。次の世代は新しい知識、技術に飢えています。その人たちを次世代の指導者として育てるのはこれまで実績を積んできた岡山大学においてはありません。私たちのNPOも発展し、今年6月1日より岡山県で3番目となる認定NPOとして国税庁長官より認定を受けました。是非、今後のご支援をお願いいたします。

平成24年6月受理

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病原細菌学
電話：086-235-7158 FAX：086-235-7162
E-mail：dragon40@beach.ocn.ne.jp